

タイトル	北海道内の小都市における地域発展計画の分析(3) : 石狩市を事例として
著者	竹田, 正直; TAKEDA, Masanao
引用	開発論集(89): 11-33
発行日	2012-03-15

北海道内の小都市における地域発展計画の分析(3)

—— 石狩市を事例として ——

竹 田 正 直*

はじめに

本稿は、当開発研究所紀要、第 86, 87 号の続きで、課題は分権型社会における地方小都市の地域発展計画の分析であり、その事例として札幌市（人口約 189 万人）に隣接する石狩市（人口約 6 万人）を取り上げる。石狩市は、2005 年（平成 17 年）10 月 1 日に、旧石狩市、旧厚田村、旧浜益村の 3 市村が合併してできた新しい自治体である。（註 1）

第 86 号では、合併推進の背景として、第 1 は、「地方分権の推進への対応」、第 2 は、「少子高齢化への対応」、第 3 は、「厳しい財政状況への対応」の 3 点の概略を述べた。

その上で次の 3 つのことを分析した。すなわち、第 1 に、「自治体の基本理念」を 2008 年（平成 20 年）4 月 1 日から施行した「石狩市自治基本条例」と、石狩市企画財政部企画調整課編『第 4 期、2007（平成 19 年度）—2016（平成 28 年度）石狩市総合計画～あい風と人間（ひと）が輝く活力のまち・石狩～』、2007（平成 19 年）3 月、の評価と問題点の指摘を行った。第 2 に、「住民の人口動態分析」を、合併後の市全体の人口動態や旧 3 市村別の人口動態、将来の推計人口動態を分析し、急激な少子高齢化への対応の重要性を析出した。第 3 に、「3 市村合併後の財政再建計画」を、全国的な自治体財政の危機と旧石狩市、旧厚田村や旧浜益村の財政危機の諸要因を探り、合併後の財政再建計画の実施と一定の改善を分析した。（註 2）

しかし、長期的観点から少子高齢化を改善し、自治体財政を再建し、地域発展計画を軌道に乗せる上で重要な子育てや人づくりについては課題として残した。この課題を第 87 号で石狩市の子育てと教育にかんする 3 つの資料を用いて分析した。（註 3）

2011 年 3 月 11 日、東日本巨大地震（M 9.0, M 7.9 以上は地震分類上「巨大」地震）が発生し、岩手、宮城、福島を中心とする東北地方の諸県に、千年に一度という、2 万名近い死者、行方不明者と市町村の崩壊など甚大なる被害をもたらした。さらに、その地震と津波による東京電力福島第 1 原子力発電所の損壊と爆発により、将来にわたって計り知れない巨大な災害をもたらした。全国の自治体で、住民の健康、子育て、安心・安全が、これまで以上に自治体の重要課題となってきた。

このような状況の中で、本稿（第 89 号）では、第 1 に、石狩市の住民の健康、子育て、安心

*（たけだ まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員

にかんする施策について分析する。第2に、分権型社会への移行についての大都市の状況と中都市の状況について触れてみたい。

第1章 データー分析と石狩市の基本動向

第1節 データーの分析

本稿で分析の対象としたのは、石狩市健康推進室保健推進課編、『石狩市健康づくり計画～元気・安心・支えあいのまち いしかり～』、石狩市発行、平成23年6月、である。(註4)

これは、石狩市健康づくり計画検討会議ワーキンググループ(成人の健康づくりワーキンググループ)が市民アンケート『働き盛りの健康習慣に関するアンケート』を実施し、その結果を公刊したものである。(註5) ここでいう、「石狩市健康づくり計画検討会議」は、あとででてくる「石狩市健康づくり協議会」(学識経験者2名、保健医療団体4名、関係団体4名、公募3名、行政委員=石狩市関係部長4名、計15名)と同じか、あるいは「石狩市健康づくり協議会」の内部組織とも思われるが、両者の関係は明示的ではない。実施機関としては、「石狩市健康づくり計画検討会議ワーキンググループ(成人の健康づくりワーキンググループ)」が挙げられているが、これが「石狩市健康づくり協議会」の庁内組織のワーキンググループと同じものかも明示されていない。(註6)

検討会議と協議会、ワーキンググループ相互と、検討会議と協議会との関係性も不確定性をふくんでいる。

『働き盛りの健康習慣に関するアンケート』は、石狩市民のうち、40才から59才の5才刻みの年齢の男女各1,000人、合計2,000人を対象とし、回収数は726通(回収率36.3%)である。この回収されたアンケートの結果が、平成23年(2011年)1月となっている(註7)が、アンケートがいつ実施されたかは、残念乍ら明示されていない。前述した協議会の設置要綱が、平成22年5月18日(要綱第61号)であるから、恐らく、平成22年夏から秋にかけての実施と推定される。

したがって、『石狩市健康づくり計画』の発行が、平成23年6月で、「3・11」後であったので、「3・11」後の住民の安心や健康についての意識変化の反映を期待したが、アンケート自体が「3・11」以前であり、かつ、集計結果も平成23年1月で、「3・11」以前のアンケートであることを前提に検討したい。

第2節 石狩市の人口など基本指標

石狩市の最新の人口は、平成23(2011)年12月31日現在で、女性31,309人、男性29,440人、総計60,749人である。(註8)

昭和35年の国政調査人口が23,028人であったから、約50年間に、2.6倍に増加(近年の厚田、浜益2村との合併を含め)したことになる。しかし、例えば、浜益村は、この間に、1万

人弱から今日、1,706人(平成23年4月1日)に減少しており、現在の石狩市の全地域の人口でいえば2倍弱といえる。女性が51.5%であり、男女比率の開きは3%余に及ぶ。

表1、「石狩市の人口」は、昭和60年から平成17年まで5年きざみに、それ以降は毎年の人口が表示されている。昭和60年、すなわち約25年前は、年少者(0~14才)比率がもっとも高く25.9%、若年者(15~29才)比率15.6%、高齢者(65才以上)比率が、8.8%であったのが、少子高齢化で20年後の平成17年には、夫々、13.8%、17.0%、19.3%と逆転した。

その後の少子高齢化はさらに進み、平成22年は、13.5%、14.3%、22.3%である。年少者はあまり変わっていないが、若年者の減少と高齢者の増加は著しい。高齢化は合併も影響している。それでも、平成22年の高齢者比率22.3%は、全道平均(24.3%)や全国平均(23.0%)より低いし、年少者比率13.5%は、全道平均(12.1%)や全国平均(13.3%)よりも高くなっている。(註9)

このような動向の背景には、大規模団地の開発による札幌のベットタウン化の成功や、石狩湾新港とその影響のもとでの新企業誘致の増加(平成16年度590社が、平成22年609社)、最近のサクラインターネット「石狩データセンター」(敷地51,448m²、2011年11月15日開設)の稼動、さらに、東南アジアとサハリンからの天然ガス輸入・貯蔵タンクの建設と天然ガスを利用した火力発電所建設の決定などの地域経済の活性化と雇用の創出のための田岡克介石狩市長らの努力がある。そのうえ、きめ細かくは、市長公宅の託児施設への利用などによる待機児童ゼロの実現がもたらす出生・育児への安心などがある。

なお、石狩市の健康づくりの基本理念は、WHO(世界保健機関)の「ヘルスプロモーション」、すなわち「人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス」を採用している。(図1参照)「健康づくりは、本来、個人の健康観により、市民一人ひとりが主体的に取り組むことが基本です。しかし、個人の努力だけでは困難なことも多く、健康づくりを継続して取り組んでいくには、地域、団体、企業、学校、行政等がそれぞれの特性を活かしながらその取り組みを支えていくことが大切です」と、田岡克介石狩市長が述べているのは、まさに、「ヘルスプロモーション」の理念である。(註10)

自助、共助、公助のバランスのとれた相互理解、相互交流、相互支援が、様々な分野で発展することが望ましい。

このような理念にもとづいての健康づくりは、これまでも一定の成果を上げてきており、少し古い資料であるが、平成17年度の「平均寿命」は、男性は、全国平均より0.4才高く、全道平均より0.9才も高い。女性は、全国、全道とも0.5才高い。

世界的にトップの日本の平均寿命の中にあって、更に、全国、全道より高いことは、大いに誇ってよいことであるが、この高さをもたらす遠因の一つとして、豊かな自然環境があげられる。浜益村、厚田村との合併で拡大した80kmに及ぶ海岸線は、その景観の美しさや、海水浴などのスポーツ活動にとっても、豊かで新鮮な漁業資源としても、市民の健康づくりに、今後、益々貢献するであろう。また、水田、畑作、酪農、そして、広大な森林地帯の恵みもはかりし

れないプラス要因である。天然温泉による保養施設と市民優待の格安施設も、市民の共助と憩いや癒しに、間接的とはいえ影響を与えているであろう。

第2章 市民のがん検診と乳幼児検診

第1節 特定検診とがん検診

平成20年4月から施行された「高齢者の医療の確保に関する法律」により、いわゆる「メタボリックシンドローム」（内臓脂肪症候群）をへらすために、特定健康審査・特定保健指導を義務づけ、生活習慣病予備軍の減少をめざしている。さらに、その先には、国民健康保健会計の改善がある。

石狩市民の特定健康審査は、平成20年度が対象者10,414人に実施者数1,110人、受診率10.7%、平成21年度は、対象者数10,547人、実施者数1,142人で受診率10.8%（註11）である。約11%の受診率は、石狩管内での、平成21年度実績の、北広島市27.5%、千歳市23.0%、恵庭市18.5%、江別市16.2%の中で最低率、さらに隣接の大都市札幌の16.8%も下廻り、全道平均21.5%、全国平均31.4%の三分の一である。平成25年度からは、この受診率などを評価したうえで「後期高齢者医療制度に対する医療保険者の支援金の負担を±10%の範囲内で加算・減算を行う仕組みが導入される予定」（註12）であり、ことは深刻である。

表3は、がん検診の平成19～21年度の受診者数と受診率であるが、これも低い受診率であり、かつ、年度のバラつきも見られる。がん検診のうち、比較的受診率の高い子宮頸がんと乳がんの検診受診率が、表4である。これによると、子宮頸がんの受診率は、17.5%で、全道平均の29.8%、全国平均の21.0%よりも低い。乳がんが、20.9%で、全道平均27.7%よりは低いが、全国平均16.3%よりは、わずかに高いだけである。

「健康都市石狩市」を目指している田岡石狩市長は、推されて全道市長会の代表をしており、その市長の足もとで、市民の健康、生活習慣病予防にかんする受診率で、かくも全道平均より低いことは、「自助」の問題意識の低さに還元しておくことなどはできないことである。「公助」についての有効な施策が求められている。

第2節 国民健康保険会計と要介護認定

石狩市の「国民健康保険事業特別会計」（以下「国保会計」）は、平成10年度以降赤字決算であり、累積赤字のピークであった。平成19年度は、12億円をこえる赤字となった。（図5参照）

国保会計の赤字解消は、政府及び各都道府県、市町村とも大きな課題である。東京都のように大企業の本社機能が集中している自治体は別として、住民税などの独自財源が少ない自治体はほとんどが困難な状況にある。それでも石狩市は、図5にみるように、歳出が歳入を上廻っているとはいえ、歳入は3年間同額ながら歳出は2年連続低下している。

さらに、図6をみると平成20年度、21年度と、ここでも連続、単年度黒字となっている。こ

れによって累積赤字の低下がもたらされたのである。

しかし、この単年度黒字が、国保会計の独自会計の改善でもたらされたのであれば、継続性があるが、残念乍ら、一般会計からの繰入金によってもたらされた単年度黒字である。それにしても、一般会計自体を改善して繰入金を生みだしていることは評価できる。

「本市は、平成18年度の「財政再建計画」策定以来、4年にわたって事務事業の見直しを基調とした行財政改革を進め、財政基盤の再構築に取り組んできました、計画初年度の平成19年度決算から平成23年度予算に至るまで、基金からの繰入りに頼らない財政運営が可能となり、さらに毎年度一定規模の繰越金が確保されるなど、その成果は着実に表れてきています。」

「平成23年度の地方財政計画は前年度とほぼ同じ水準が確保され、歳入面では企業収益の回復等により、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が一定程度回復することが見込まれているものの、社会保障関係費が大幅に自然増となることや公債費が依然として高水準であることなどから、多額の財源不足が生じている状況にあり、地方財政を取り巻く環境は先行きが厳しい状況にあります。」(註13)

健康についての財政にかんするものでは、要介護認定者の増大がある。認定者の増大は、平成12年度の1,217人から、平成22年度の10年間に2倍近い2,242人となっている。表5にみられるように、平成18年後も毎年増大している。要支援1から要介護5までの7段階の間では、毎年若干のぶれがある。要支援1は減少し、要支援2は増加している。要介護3と5も減少しているが、他は増大傾向である。

22.3%という石狩市の高齢化率の増加傾向を考えると今後とも要支援や要介護者の増加が推定される。全国的には、公助の側が積極的継続的に豊かな自主的な老後の施策を推進し、予防・検診・健診を習慣化・定期化して医療費や介護費を減少させている自治体の経験に学び、その施策を研究し、公助から共助へ、そして自助への普及を考えるべきである。

いうまでもなく、市民自身は、自助をまず重視し、共助、公助への視点をもつべきである。そのさい、自助を高めるためには、病気への予防という視点のみならず、活動や労働のもつ健康への積極的視点を大切にすべきである。人間が働くことの中には多くの人間的喜びがふくまれていることを自覚しておくことも重要である。筆者は、人間の働く喜びとして、10個の喜びを提起している。

第3節 子どもの健康を守る健診

石狩市の人口動態の資料の一つとして、表6に掲げた平成21年の出生数と死亡数、とくに乳児等の死亡数の資料がある。

この資料の意味することについて、石狩市の健康推進室保健推進課自らが次のように述べている。

「本市の周産期死亡率は全道と比較しますと高い傾向にあります。この原因については、喫煙・飲酒や不妊治療の増加、妊娠の高齢化、妊娠中の体重管理、生活習慣、不慮の事故など様々

な要因が考えられます。今後も引き続き原因の分析を行うとともに、保健所や医療機関などとの連携を強化し、妊産婦やその家族への保健指導の充実や必要な情報の啓蒙を行い、子どもが健やかに育つよう支援していくことが必要です。」(註14)

ここでは、現状にたいして鋭い分析視点をもち、対策を強化する姿勢が伺える。具体的には、母子手帳の交付と相談の強化、妊産婦訪問や相談の実施、平成21年度より改正された妊婦一般健康診断14回分無料化、超音波検査6回分無料化、マタニティストラップの配布、両親教室、子育て交流会などを実施している。手帳の配布は93.5%、ストラップ配布も89.4%と高率であるが、両親教室は極端に低く5.9%である。父親(になる人)の理解と勤務・残業時間の問題が影響しており、何らかの工夫が必要である。

乳幼児健診の状況について、平成19年度から21年度の状況について表8と表9を参照してほしい。子どもの成長にともなって健診の率が低下しており、親の成長への安心感が反映しているとも考えられるが、他方、経年的にみると受診率が、わずかながら下がっており(3才児にいたっては5%も低下)、公助のはたらきかけに問題がなかったか懸念されるところである。

表11は、平成21年度乳幼児歯科健康診査状況であるが、1才6ヶ月児の実施が92.8%、3才児が88.4%で、これもいっそうの努力が求められている。石狩市の中心部、旧石狩市は、1才6ヶ月児も3才児も、年24回の実施であるが、合併した厚田区と浜益区は年4回の実施であることが影響していなければ幸いである。表12では、虫歯のない3才児の割合が、66.7%と低いこととも関係しているかもしれない。

第3章 年代ごとの健康づくり

第1節 子どもたちの食育

人間の健康にとって食生活は、非常に大きな意味を有しているが、とりわけ、発育世代の小学校の児童や中学校の生徒の食育は大切である。中でも、就寝時間の不規則性ともかかわって朝食の摂取は重要である。表13は、石狩市の児童・生徒の朝食の摂取状況であるが、「朝食を毎日食べていますか?」の設問へ、「食べている」と「どちらかといえば、食べている」との両方の回答を合わせたものが、小学校の児童で93.3%、中学校生徒で92.4%である。このうち、「朝食を毎日食べている」割合は、小学校で84%、中学校生徒で83%である。これらの数値は、全道とあまりかわりがないが、毎日食べるが80%代という低さは、やはり、発育期の児童・生徒にとっては問題である。

行政の目標として、100%摂取の目標を掲げているのは当然といえる。とはいえ、この問題こそ、まさに、自助と共助が大きく影響することであり、そう簡単ではない。

次に、「思春期保健対策の推進」として、主要な施策をあげている。すなわち、①性や感染症予防等に関する正しい知識の普及、②薬物等、喫煙防止の推進、③思春期保健対策の取組み方法の検討、④家庭や地域との連携、⑤学校保健との連携、⑥心の健康に関する相談体制の充実、

⑦適正体重の啓発と食生活の改善，があげられている。

しかし，施策の具体化はほとんどみられない。恐らく，対策の多くは，教育委員会や学校，家庭にかかわることで，教師や保護者の協力なしには推進できないからであろう。

若干，具体的施策として，石狩市企画経済部企画課『第4期石狩市総合計画（戦略計画）』，すなわち，平成23年度の一部見直しについての市の原案を平成23年度11月1日から，11月30日まで，市民の意見を募集するための文書の中にみることができる。

「子育て支援の充実」の施策の体系としてあげているのは，①すべての子どもと子育て家庭が育ちあう共創の支援，②人と社会にやさしい子どもを育むための支援，③子どもと家庭の健やかな成長への支援，④子育てを支援する生活環境づくり，⑤支援が必要な児童・家庭への取組，の5つの点のうち，①～④は変わっていない。しかし，⑤の「児童」が「子ども」に言葉が変わっている。これは「児童」は，学校教育で「小学校児童」を意味し狭義に理解されかねないので，近年の子ども権利宣言への積極的対応と，他方，子どもの虐待や問題行動の年齢的な広がりへの対応であろう。（註15）

また，これら5点の施策内容に対応する成果指標として，従来は，「子どもを安心して産み育てることができるまちと感じている市民の割合」を指標とし，平成17年度（実績）27.5%を，平成23年度（目標）70%としていた。これを見直しでは，「ファミリーサポートセンター会員登録者数」平成22年度（実績）593人を平成28年度（目標）850人としている。

この指標の変化の意味，理由は明示されていない。従来指標が抽象的だったからか，市民の感じをアンケートで知ることの困難か，あるいはあまり%が上らないせいかなど不明である。逆に新しい指標となったファミリーサポートの活動が有効で，目標としても具体的で解りやすいということからであろうか？

また，「認可保育所入所待機児童数（実質待機年度平均値）」を，「認可保育所入所待機児童数（国の待機児童の定義に基づく年度平均値）」と変更した。数値そのものは，平成17年度（実績）37人を，平成23年度（目標）0人を実現した。新たに平成22年度（実績）0人を，平成28年度（目標）も0人としている。「保育所待機児童数」は，平成16年4人，17年0人，18年23人，19年11人，20年0人，21年48人，22年0人となっている。平成22年は定員数945人，入所者数866人とかなり余裕が生じている。（註16）

第2節 スポーツによる健康づくり

石狩市は，平成9年10月10日に，「スポーツ健康都市宣言」を行い，スポーツを盛んにし，市民の健康を積極的に発展させる施策をとっている。宣言では，「わたくしたち石狩市民は，石狩平野の爽やかな風と，豊かな自然の中で，スポーツと健康づくりを通じ，からだと心を鍛え，活力あふれるまちづくりをめざし，ここに『スポーツ健康都市』を宣言します。—スポーツと健康づくりに励み，たくましいからだを豊かな心を育てます。—スポーツと健康づくりに親しみ，明るくすこやかな生活をおくれます。—スポーツと健康づくりを通じて，友情と交流の輪

を世界に広げます。」(註17)

主要な施策では、スポーツ団体のホームページの開設支援、そのネットワークづくり、保健・医療・介護・福祉分野のサービス向上のための予約システムのIT化など情報分野の施策に力を入れている。

しかし、表14のスポーツ関係ホームページにみるように、ホームページの開設率は9.5%と未だ低い。わずかに学校開放にかんするホームページが31.4%になっている。

他方、表15のスポーツ支援を見ると、平成21年度に、町内会のウォーキング24回、体育指導委員開催事業6回、イベント協力体育指導委員350人、学校運動部へのスポーツSAT(スクール・アシスタント・ティーチャー)173人などの積極的な結果や体制も伺える。

図8「市内スポーツ施設利用状況」は興味深い資料である。(註18)スポーツ施設利用者の全体数は、平成18年度の352,433人から、20年度の317,210人に低下したが、21年度の施策の強化と合わせて360,890人に急増していることである。ここに公助のもつ積極的な反映をみることができる。その全体数の各施設ごとの内訳であるが、7つの施設が上げられている中で、緑苑台パークゴルフ場が突出して利用者数が多く、21年度で110,707人と三分の一を占めている。ついで、学校開放であり、施策の成果が出ている。多目的スポーツ施設とスポーツ広場、海洋センターの3施設は、ほぼ5~6万人と同じ利用である。スポーツ広場の伸びが目立っている。

他方でスキー場とスポーツセンターの利用が実に低い。スキー場は、全道的に利用は減少しているが石狩市の場合、多くの愛好家は、比較的近い札幌市のテイネハイランドスキー場や小樽市のオーズスキー場、朝里スキー場へ行くので、むしろ、そういう愛好家への支援、例えば利用券の補助やスキースクールのバス代補助などの施策が有効であり、それによって他都市での利用者数も把握できる。その逆は、パークゴルフ場の場合に、もし、11万人が総入場者とする、札幌市からの利用者もふくまれていることになる。

図9の「運動に関するアンケート調査結果」によれば、「日常生活で、歩くように心がけていますか?」の問いへ、「はい」の回答が、56.8%であり、さらに、1万歩以上歩くが8.8%、5千~1万歩まで27.5%と三分の一以上が5千歩以上歩いており、これは、なかなかのものである。市民の仲間意識とともに、緑の多い市内の良好な環境も影響しているであろう。まさに、自助、共助、公助の一体化である。そのことは、施策を強化した21年から22年への年間継続的スポーツ人口の比率増にあらわれている。

第3節 成人の健康づくり

石狩市の「がん検診(40~59才)受診状況」(表17)によると、平成20年と21年で、胃がん11.9%と10.7%、肺がん10.3%と9.6%、大腸がん12.0%と11.1%、子宮頸がん5.4%と20.6%、乳がん22.5%と31.1%である。全体として低受診率である。しかし、先に述べた、市民アンケート(平成22年実施、23年1月結果、表18、19)によれば、「ほぼ毎年受けている」

人が胃がん 38.6%，肺がん 47.0%，大腸がん 33.1%，「2～3年に1回くらい」が、胃がん 21.5%，肺がん 16.0%，大腸がん 21.8%と、2つの回答をあわせると、夫々60%前後が、毎年か2、3年に1度受診していることになる。表17の対象者数が明示されている（胃がん等は5,146人、乳がん3,994人）の根拠が不明なので、表18、19との違いの原因は不明である。

図11は、「健康のために心がけていること(複数回答)」によれば、バランスがよい食事43%，規則正しい生活を送る39%，しっかり睡眠をとる34%，定期的に健康診断を受ける29%，適度な運動やスポーツをする25%，寝る前の飲食を控える25%などとなっている。また、図12の「生活習慣において『不健康』と感ずること」(複数回答)では、1位の運動不足が50%で突出しており、2位が野菜の摂取が少ない26%，3位が夜更かし、睡眠不足25%，次いで、夕食の時間が遅い21%，食べ過ぎ21%などとなっている。

上記のアンケート回答は、自助にかんする内容の回答が多いが、しかし、定期的健診やスポーツを行うことにかんしてはすでに述べたように、公助も積極的施策を行うことで大きな支援の可能性がある。

また、表20「地域包括支援センター相談件数の状況」にみられるように、石狩市は、配食サービス、理美容・紙おむつ支給サービス、徘徊認知症高齢者等探索機器貸与サービス、生活支援サービス、外出支援サービス、権利擁護事業などを行っており、また、「サービスのあり方見直し」も常に留意し、時代にあった市民への健康、生活サービスを行っている。このサービスのために広くヴォランティア、支援者を育成しており、市民の健康づくりへの共助支援も積極的に展開している。

おわりに

本稿で課題にした第1、石狩市の住民の健康、子育て、安心にかんする施策についての分析は、自助、共助、公助の関係を軸として、検診と健診、スポーツと健康支援などについて不十分ながら分析しえたが、第2の、分権型社会への移行についての大都市（東京23区内の事例）の状況と道内中都市（小樽市）の状況については、資料収集は一定程度なしえていたが、締め切りと予定紙数の関係でなしえず、今後の課題としたい。

註

- (1) 石狩市、厚田村、浜益村の編入合併の経緯と、当時の3市村の社会経済状況については、竹田正直「市町村合併後の地域社会経済の展望——新しい石狩市を事例として——」(『北海学園大学経済論集』、第53巻、第4号、2006年3月刊、89～116頁を参照。
- (2) 竹田正直「北海道内の小都市における地域発展計画の分析——石狩市を事例として——」(『北海学園大学開発論集』、第86号、2010年9月刊、33～49頁を参照。
- (3) 3つの資料とは、①石狩市企画財政部企画調整課編『第4期、2007(平成19年度)——2016(平成28年度)石狩市総合計画～あい風と人間(ひと)が輝く活力のまち・石狩～』、2007(平成19年)

3月，1～98頁，②石狩市保健福祉部子ども子育て支援課『子ども・いあいプラン』，石狩市，平成22年3月発行，1～53頁，③『石狩市教育プラン』（石狩市教育委員会，平成21年度？），1～75頁，である。

- (4) 石狩市健康推進室保健推進課編，『石狩市健康づくり計画～元気・安心・支えあいのまち いしかり～』，石狩市発行，平成23年6月，1～102頁
- (5) 同上，91～92頁
- (6) 同上，91～102頁
- (7) 同上，91～92頁
- (8) 石狩市市民課による
- (9) 同上，10頁
- (10) 同上，「はじめに」
- (11) 同上，15頁
- (12) 同上
- (13) 石狩市財政部財政課財政担当『平成19年度～23年度石狩市財政再建計画（第4次改訂版）』，平成23年3月，1頁
- (14) 同上，23頁
- (15) 石狩市企画経済部企画課『第4期石狩市総合計画（戦略計画）』，平成23年度の一部見直しの市の原案を平成23年度11月1日から，11月30日まで，市民の意見を募集するための文書，27～28頁
- (16) 『石狩市データ』石狩市企画経済部，「参考・保育所（基準日4・1）」より。
- (17) 前掲『石狩市健康づくり計画（平成23～27年度）』，67頁
- (18) 前掲，77頁

表 1 石狩市の人口

区 分	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年
総数	48,013	53,135	57,704	59,323	60,100
0～14 歳(a)	12,438	11,550	10,117	8,688	8,284
15～64 歳	31,347	35,822	39,774	40,934	40,225
うち 15 歳～29 歳(b)	7,480	9,480	11,477	11,746	10,222
65 歳以上(c)	4,228	5,763	7,813	9,701	11,591
(a)／総数年少者比率	25.9%	21.7%	17.5%	14.6%	13.8%
(b)／総数若年者比率	15.6%	17.8%	19.9%	19.8%	17.0%
(c)／総数高齢者比率	8.8%	10.8%	13.5%	16.4%	19.3%

区 分	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
総数	61,347	61,328	61,367	61,191	61,109
0～14 歳(a)	8,347	8,301	8,256	8,288	8,230
15～64 歳	41,331	40,867	40,438	39,668	39,266
うち 15 歳～29 歳(b)	10,541	10,153	9,693	9,123	8,743
65 歳以上(c)	11,669	12,160	12,673	13,235	13,613
(a)／総数年少者比率	13.6%	13.5%	13.5%	13.5%	13.5%
(b)／総数若年者比率	17.2%	16.6%	15.8%	14.9%	14.3%
(c)／総数高齢者比率	19.0%	19.8%	20.7%	21.6%	22.3%

(注) 上段の昭和 60 年～平成 17 年数値は国勢調査人口である。

下段の平成 18～22 年数値は住民基本台帳人口である。

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成 23 年度～27 年度〉』平成 23 年 6 月，石狩市，10 頁

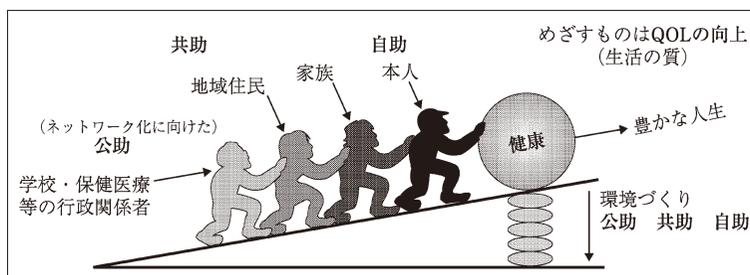


図 1 ヘルスプロモーションの理念

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成 23 年度～27 年度〉』平成 23 年 6 月，石狩市，2 頁

表2 石狩市の死因順位（年次推移）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
H 16	悪性新生物 162	心疾患 66	脳血管疾患 61	肺炎 31	不慮の事故 15
H 17	悪性新生物 171	脳血管疾患 80	肺炎 55	心疾患 48	不慮の事故 21
H 18	悪性新生物 174	脳血管疾患 65	肺炎 53	心疾患 49	不慮の事故 18
H 19	悪性新生物 155	心疾患 67	脳血管疾患 63	肺炎 50	自殺・不慮の事故 30 (15・15)
H 20	悪性新生物 170	心疾患 74	脳血管疾患 44	肺炎 42	自殺 12
H 21	悪性新生物 172	心疾患 87	脳血管疾患 64	肺炎 51	不慮の事故 17

（資料：北海道保健統計年報）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，13頁

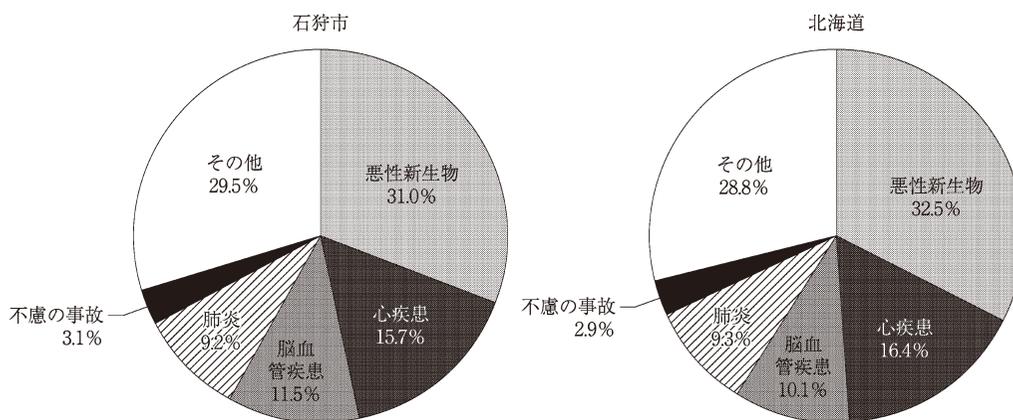


図4 主要死因の構成割合（平成21年）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，13頁

表3 石狩市のがん検診受診者数の状況（過去3か年）

（単位：人）

項目	対象数	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率
胃がん検診	17,121	2,259	19.6%	2,040	11.9%	1,941	11.3%
肺がん検診	17,121	1,901	16.5%	1,826	10.7%	1,799	10.5%
大腸がん検診	17,121	2,474	21.5%	2,173	12.6%	2,078	12.1%
子宮頸がん検診	14,415	775	12.2%	1,001	12.3%	1,524	17.5%
乳がん検診	11,400	847	16.4%	1,002	16.2%	1,432	20.9%

※対象数は21年度数値である。

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』

平成23年6月，石狩市，16頁

表4 石狩市のがん検診受診率（単位：％）

区分	全国・道比較	19年度	20年度	21年度
子宮頸がん	石狩市	12.2	12.3	17.5
	北海道	24.5	28.8	29.8
	全国	18.8	19.4	21.0
乳がん	石狩市	16.4	16.2	20.9
	北海道	18.3	22.5	27.7
	全国	14.2	14.7	16.3

※H21クーポン券対象者受診率＝

「子宮頸がん」33.3％・「乳がん」27.4％（石狩市）

「子宮頸がん」28.0％・「乳がん」27.6％（北海道）

「子宮頸がん」21.7％・「乳がん」24.1％（全国）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』

平成23年6月，石狩市，17頁

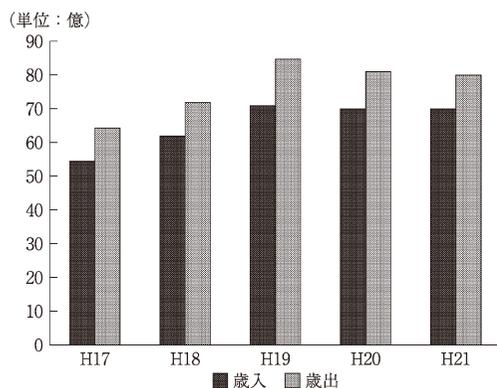


図5 歳入歳出決算状況

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，21頁

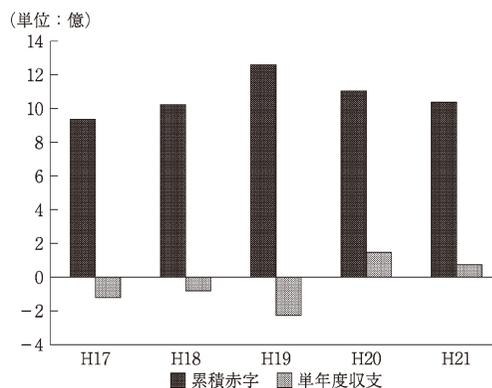


図6 単年度収支及び累積赤字の状況

（資料：国民健康保険課）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，21頁

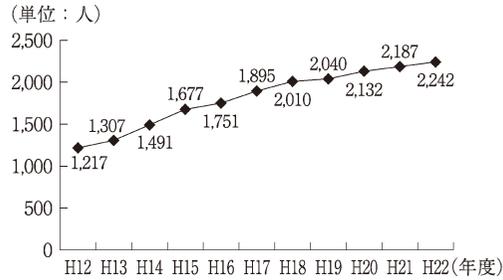


図7 要介護認定者の推移

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，22頁

表5 最近5か年の認定者数の推移 (単位：人)

項目	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
第1号被保険者数	12,159	12,678	13,234	13,608	13,753
認定者数	2,010	2,040	2,132	2,187	2,242
要支援1	215	134	139	162	158
要支援2	169	284	317	327	324
要介護1	504	402	444	476	533
要介護2	324	370	376	384	399
要介護3	301	330	341	306	272
要介護4	250	276	275	283	300
要介護5	247	244	240	249	256

(資料：高齢者支援課)

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，22頁

表6 平成21年人口動態(実数・率)

	出生数	死亡数	乳児死亡数	新生児死亡数	周産期死亡数	死産数	
						総数	人工
石狩市	411	555	3	1	4	15	8
石狩市(率)	6.9%	9.3%	7.3%	2.4%	9.7%	35.2%	18.8%
全道(率)	7.3%	9.7%	2.2%	1.0%	4.4%	32.8%	19.1%

注) 率の出生率及び死亡率は人口千対，乳児死亡率以下は出産千対の率である。(資料：北海道保健統計年報)

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，23頁

表7 母子手帳発行率など

評価指標	市の現状 (平成21年度)	目標値
妊娠11週までの母子健康手帳発行率	93.5%	上昇
マタニティストラップ発行率	89.4%	上昇
両親教室の参加率の向上	5.9%	上昇

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，25頁

表8 乳幼児健康診査の状況（受診率）

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
4か月児健康診査	99.1%	99.8%	98.6%
10か月児健康診査	95.1%	96.0%	94.5%
1歳6か月児健康診査	94.4%	92.7%	93.7%
3歳児健康診査	93.0%	89.7%	88.8%

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，27頁

表9 妊婦一般健康診査状況（平成21年度）

受診数	エコー検査	HBs抗原陽性者指導
5,846件 (14回分)	2,538件 (6回分)	0人

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，18頁

表10 乳幼児健診の状況

区分	区分	H19	H20	H21
4か月児健診	対象数	438人	479人	420人
	受診数	434人	478人	414人
	受診率	99.1%	99.8%	98.6%
10か月児健診	対象数	431人	479人	470人
	受診数	410人	460人	444人
	受診率	95.1%	96.0%	94.5%
1歳6か月児健診	対象数	486人	455人	542人
	受診数	459人	422人	508人
	受診率	94.4%	92.7%	93.7%
3歳児健診	対象数	560人	526人	516人
	受診数	521人	472人	458人
	受診率	93.0%	89.7%	88.8%

※りんくる／各健診毎月1回（年12回），厚田区／各健診同時実施 年4回，浜益区／各健診同時実施 年4回

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，18頁

表11 平成21年度乳幼児歯科健康診査状況

単位：人

内容	対象数	受診数		
			虫歯のある 子どもの数	受診率
1歳6か月児健康診査	538	499	15	92.8%
3歳児健康診査	516	456	152	88.4%

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，18頁

表 12 乳幼児健診や接種率

評価指標	市の現状	目標値
1 育児が楽しいと感じている人の割合 (4か月児健診での子育てアンケートにより)	74.4%	80%
2 赤ちゃん訪問の実施率	90.6%	100%
3 赤ちゃん訪問時での産婦喫煙率	15.9%	10%以下
4 乳幼児健診(4か月児健診)の受診率	98.6%	100%
5 乳幼児健診満足度(満足と答える人の割合)	75.0%	80%以上
6 5歳児健康相談の受診相談数	72名	増加
7 BCG接種率	95.0%	100%
8 MRワクチン接種率(各期)	I期 85.1% II期 94.0%	95%以上
9 虫歯のない3歳児の割合	66.7%	70%以上

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，31頁

表 13 児童・生徒の朝食

評価指標	市の現状	目標値
「朝食を毎日食べていますか?」という設問に対して「食べている」又は「どちらかといえば、食べている」と回答した児童生徒の割合	小学校 93.3% 中学校 92.4%	100%
妊婦栄養相談件数	56件 ※H21年度分	増加
食生活改善推進員の会員数	48人 ※H22年度末現在	増加

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，34頁

表 14 スポーツ関係ホームページ

評価指標	市の現状	目標値
体育協会加盟団体のホームページ開設率*1	9.5%	増加
学校開放利用団体の市ホームページによる団体の紹介率*2	31.4%	増加

※1, 2 平成22年度の実績値をベースに目標(率)を設定。
実績値＝(財)石狩市体育協会加盟団体21団体のうち2団体
学校開放使用団体(後期)86団体のうち27団体

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，69頁

表 15 スポーツ支援

評価指標	市の現状	目標値
町内会と連携したスポーツ事業の開催数*1	24回	増加
体育指導委員が開催した事業回数	6回	増加
市のイベント等に協力した体育指導委員の延人数	350人	増加
学校運動部活動への地域指導者派遣数*2	173人	増加

※1 平成21年度に町内会と連携して行ったウォーキング事業数

※2 平成21年度のスポーツSAT(スクール・アシスタント・ティーチャー)事業を含む学校への外部指導者派遣の状況：教育委員会資料

出典：石狩市健康推進室保健推進課
『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，74頁

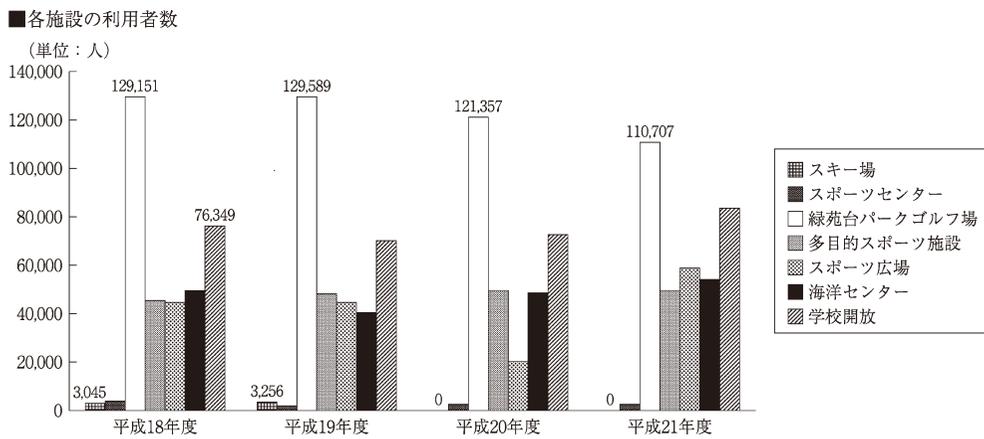
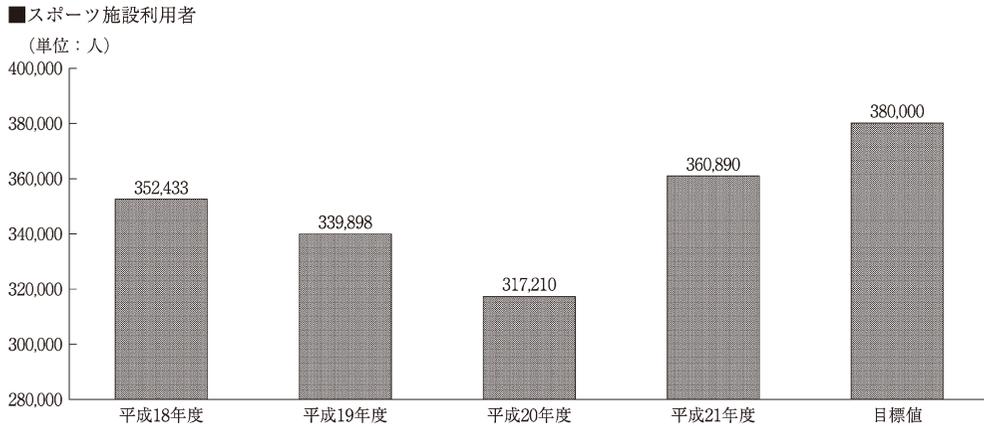


図8 市内スポーツ施設利用状況

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，77頁

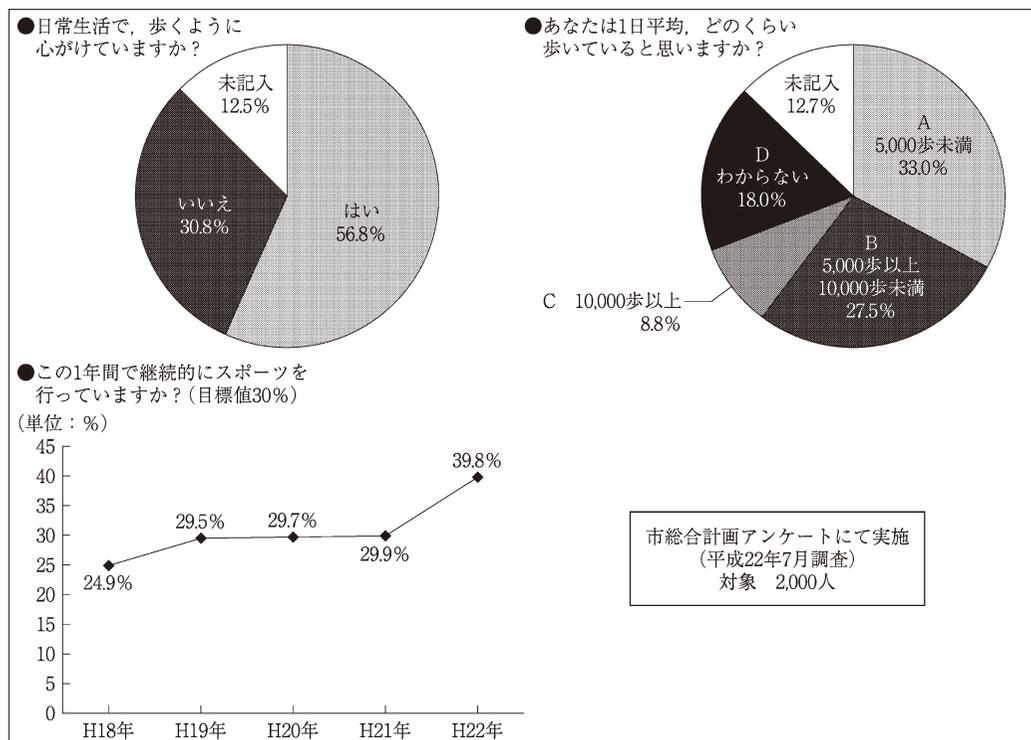


図9 運動に関するアンケート調査結果

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，79頁

表 16 スポーツ活動の概況

評価指標	市の現状	目標値
継続的に運動を行っている市民の割合※ ¹	39.8%	30%
日常生活で歩くように心がけている市民の割合※ ²	56.8%	増加
1週間に3日以上運動・スポーツをしている児童・生徒の割合※ ³	55.5%	増加
スポーツ少年団登録者数※ ⁴	841人	増加
体育協会加盟団体登録者数※ ⁵	3,184人	増加
スポーツ施設利用者数※ ⁶ (学校開放施設を含む市内26施設)	360,710人	増加

※1, 2 平成22年度実施の総合計画アンケートによる数値。目標値は総合計画の数値。

※3 平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の数値。

＝調査対象は小学5年生・中学2年生男女別を合算した数値。

※4, 5 平成22年度の実績。

※6 平成21年度の市内スポーツ6施設及び、学校開放20施設の実績数。目標値は総合計画の数値。

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，83頁

表 17 市のがん検診（40～59歳）受診状況

区分	対象数 (H20・21)	平成20年度		平成21年度	
		受診数	受診率	受診数	受診率
胃がん	5,146	611	11.9%	552	10.7%
肺がん	5,146	529	10.3%	493	9.6%
大腸がん	5,146	619	12.0%	569	11.1%
子宮頸がん*	3,015	85	5.4%	541	20.6%
乳がん	3,994	465	22.5%	810	31.1%

注) 1. 対象数は各年度の「地域保健・健康増進事業報告書」による。

2. 子宮頸がんは20～39歳の受診状況である。

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，37頁

表 18 働き盛りの健康習慣に関するアンケート

○性別・年齢別割合

年齢	男	女	計	割合(%)
40～44歳	73	90	163	22.5%
45～49歳	79	110	189	26.0%
50～54歳	81	105	186	25.6%
55～59歳	81	101	182	25.1%
無回答	2	4	6	0.8%
計	316	410	726	100.0%

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，92頁

○職業

職業	回答者数	割合(%)
自営業	74	10.2%
会社員	219	30.2%
公務員	62	8.5%
団体職員	16	2.2%
農業	9	1.2%
パート	152	20.9%
アルバイト	23	3.2%
主婦	116	16.0%
無職	27	3.7%
無回答	28	3.9%
総数	726	100.0%

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，92頁

表 19 がん検診について（胃・肺・大腸がん検診）

○各検診の受診人数・割合

項目	胃がん検診		肺がん検診		大腸がん検診	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ア. ほぼ毎年受けている	280	38.6%	341	47.0%	240	33.1%
イ. 2～3年に1回くらい	156	21.5%	116	16.0%	158	21.8%
ウ. 受けたことがない	281	38.7%	264	36.4%	317	43.7%
無回答	9	1.2%	5	0.7%	11	1.5%

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，93頁

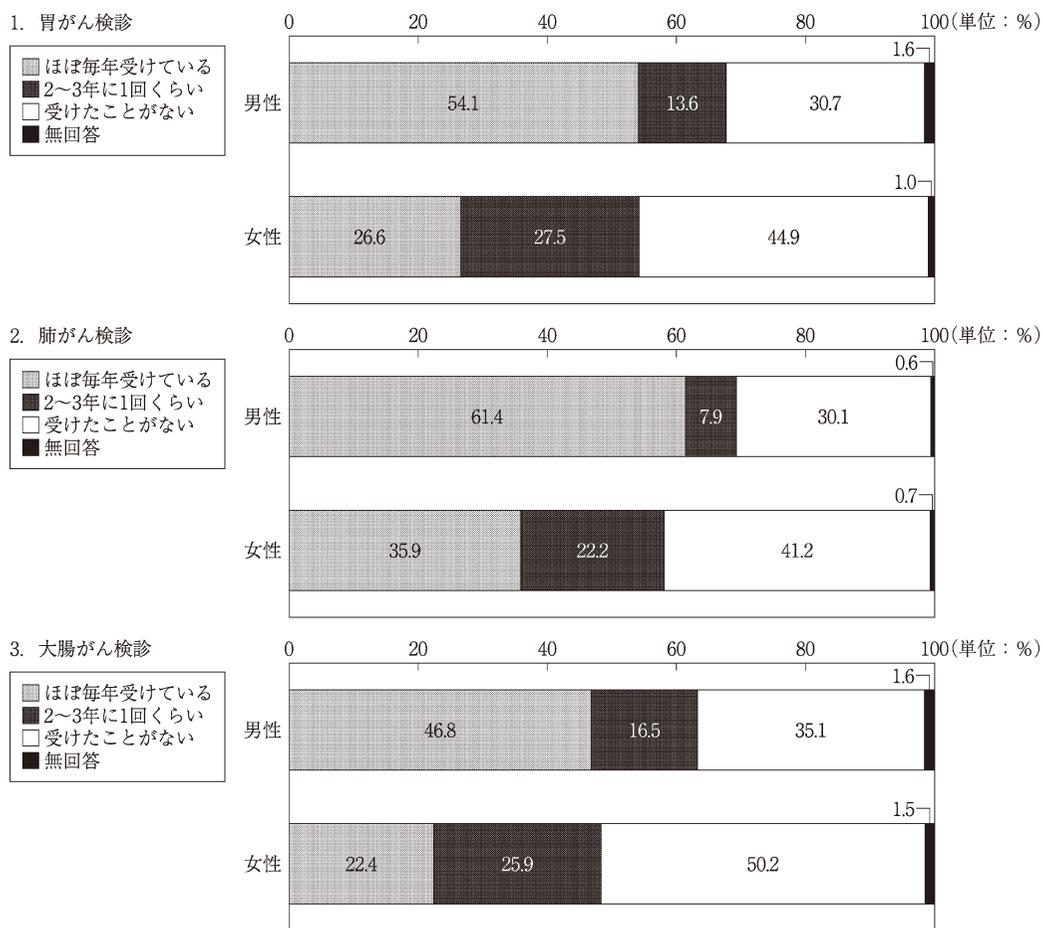


図 10 男女別受診割合

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成23年度～27年度〉』平成23年6月，石狩市，93頁

(注記) 「2. 肺がん検診」と「3. 大腸がん健診」のうち、「2～3年に1回くらい」の回答%の数字は，原資料でも判読不能のため，100%から他の回答%を差し引いた数字を入れている。(筆者)

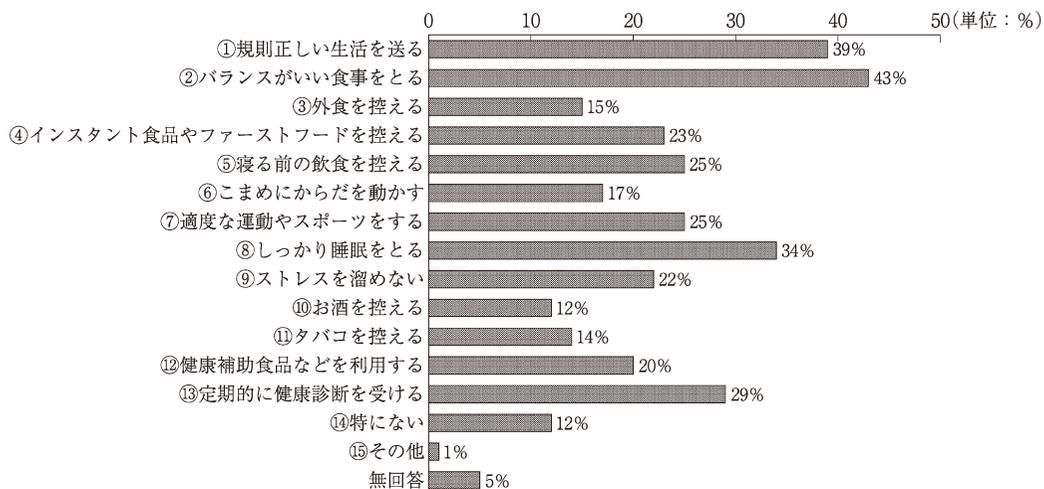


図 11 健康のために心がけていること（複数回答）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成 23 年度～27 年度〉』平成 23 年 6 月，石狩市，97 頁

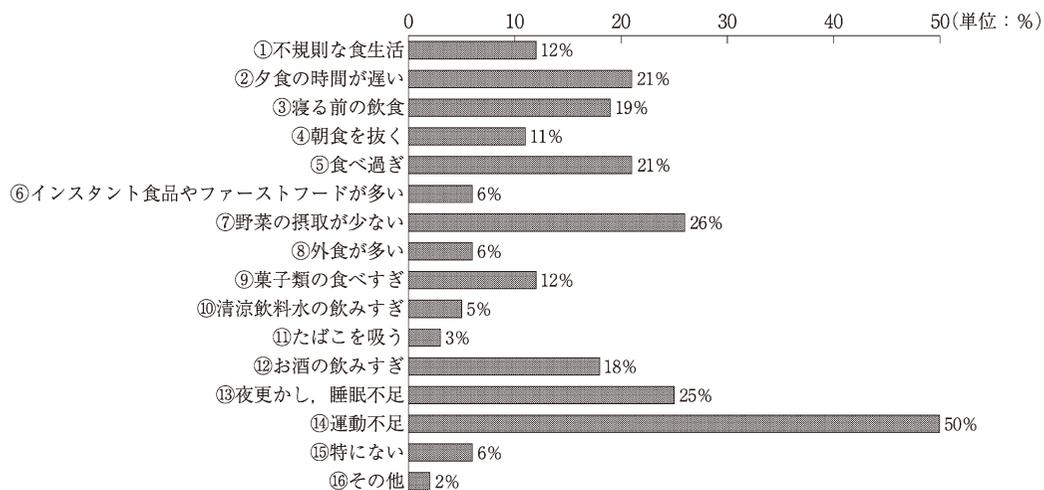


図 12 生活習慣において「不健康」と感じること（複数回答）

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成 23 年度～27 年度〉』平成 23 年 6 月，石狩市，97 頁

表 20 地域包括支援センター相談件数の状況 (件)

区 分	H 18	H 19	H 20	H 21
相談総数	2,066	2,410	3,363	3,505
花川北地域包括支援センター	1,536	1,594	1,884	2,029
地域包括支援センターホットライン 21	86	245	271	364
厚田地域包括支援センター	180	323	826	765
浜益地域包括支援センター	264	248	382	347

出典：石狩市健康推進室保健推進課

『石狩市健康づくり計画〈平成 23 年度～27 年度〉』平成 23 年 6 月，石狩市，
59 頁